

蛍光 X 線分析の実際 (第 10 回)

— 機能性材料、地球環境試料、食品、文化財の簡易迅速分析法

主催 [日本分析化学会 X 線分析研究懇談会](#)

共催 東京理科大学総合研究院 WFS 研究センター

協賛 日本化学会、日本分析化学会、電気化学会、応用物理学会、日本結晶学会、日本セラミックス協会、環境科学会、日本薬学会、日本物理学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、軽金属学会、化学工学会、高分子学会、日本結晶成長学会、日本鉱物科学会、日本材料学会、日本表面科学会、日本分析機器工業会、日本放射光学会、粉体工学会、日本顕微鏡学会、粉体粉末冶金協会、セメント協会、触媒学会、日本原子力学会 (申請中も含む)

会期 2018 年 7 月 3 日 (火) ~5 (木)

会場 東京理科大学記念講堂、大会議室 1 号館 17 階

(東京都新宿区神楽坂 1-3 TEL: 03-3260-4271)

会場地図 URL: http://www.tus.ac.jp/info/access/gmap/kag_gmap.html

[アクセス] JR、地下鉄飯田橋駅より徒歩 4 分

JR 飯田橋駅の神楽坂方面出口から見える 17 階建ての建物の 17 階です

最寄り駅 JR 飯田橋駅西口 (市ヶ谷寄り)

地下鉄飯田橋駅 B3 出口 (東京理科大出口) 有楽町線、南北線、東西線、大江戸線

地下鉄は有楽町線、南北線が一番便利で、東西線はさらに 5 分ほど歩きます

◆ 参加費

◇ 実習+講義 (3 日間): 主催・共催学会会員 25,000 円 (学生 15,000 円), 協賛学会会員 30,000 円 (学生 20,000 円), 一般 40,000 円 (学生 25,000 円) (テキスト料金は含みません; 日化会員は主催会員料金)

◇ 講義のみ (2 日間): 主催・共催学会会員 15,000 円 (学生 7,000 円), 協賛学会会員 20,000 円 (学生 10,000 円), 一般 27,000 円 (学生 13,000 円) (テキスト料金は含みません; 日化会員は主催会員料金)

◇ テキスト「蛍光 X 線分析の実際」第二版 (朝倉書店・定価: 本体 5900 円+税) を使用; 別売。
希望者は受講生一人 1 冊に限り特別割引価格の 4,000 円で頒布。申込書に購入希望を明記。

◆参加申込方法 講習会参加希望者は Web 申込システムをご利用の上、お申し込みください。

参加申込 URL: <https://iap-jp.org/jsac/confx/login/login>

◆Web 参加申込締切 6 月 21 日 (木) 正午: 定員 (講義 100 名 実習 80 名) 先着順受付、定員に達した場合申込締切。

◆申込問合先 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

X 線分析講習会ヘルプデスク FAX: 03-3368-2827

E-mail: [jsac-xray\(a\)bunken.co.jp](mailto:jsac-xray(a)bunken.co.jp) (お問い合わせはメールか FAX で。メールアドレスは(a)を@に変えてください)

◆参加費送金先: ウェブ申込完了後に自動配信をされるメールに記載されます。

メール文面に従ってご入金をお願いいたします。

◆内容問合わせ先: 東京理科大学 理学部 応用化学科 中井 泉、阿部 善也

TEL: 03-3260-4271(5782,5761) FAX: 03-3235-221 E-mail: [inakai\(a\)rs.kagu.tus.ac.jp](mailto:inakai(a)rs.kagu.tus.ac.jp) [yabe\(a\)rs.tus.ac.jp](mailto:yabe(a)rs.tus.ac.jp)

本講習会の特徴

1. 蛍光 X 線分析におけるブラックボックスの徹底理解をめざします。
2. 講師は各装置メーカーの方が多く、実践的なノウハウが学べます。テキストは新版の「蛍光 X 線分析の実際」

を使います。本格的な教科書ですので講義で習得したことの復習が容易でハンドブックとしても活用できます。

3. 蛍光 X 線分析の全くの初心者の方からワンランクアップをめざしたいユーザーまでを対象としています。
4. 各社の卓上型蛍光 X 線分析装置が勢揃いし、実際の分析の様子を見ることができ、詳しい説明も聞けるので、これから装置の購入を考えている方にも絶好の機会となります。ハンドヘルド蛍光 X 線分析計の実習もあります。
5. 蛍光 X 線分析の装置、試料、アプリケーションなどに関して、日頃疑問に思っている様々なご質問に各メーカーの方が実際の装置を前に丁寧にお答えします。
6. 食品のカドミウム、ヒ素の分析、レアメタル・貴金属の回収、ハロゲン、WEEE/RoHS/ELV 関連物質の迅速非破壊分析法として脚光をあびている蛍光 X 線分析法を理解することができます。また、土砂類中の全ヒ素と全鉛の定量法として、EDX による蛍光 X 線分析が JIS K 0470 として制定されており、本講習会でその分析技術が学べます。
7. SEM や TEM に付属している EDS 分析装置を微小部元素分析装置として活用するコツが学べます。
8. デモ見学および実習により講義で学んだことをさらに確実な知識として身につけることができます。
実習 1 では、蛍光 X 線分析の定量法として広く利用されている FP (ファンダメンタルパラメーター) 法の徹底理解をめざします。
実習 2 では、各社の誇る特徴的な装置を使った様々な試料の蛍光 X 線分析法を実習します。
9. 受講生の皆様にできるだけ蛍光 X 線分析の具体的な応用例や最先端を知っていただくため、応用事例やトピックスを紹介するポスターを「ポスター講義」として期間中掲示予定で、コアタイムでは質問もお受けします。

【プログラム】

◆ 7/3 (火) 講義 1 日目

9 時 開場

- | | | |
|---|---------------|-------------|
| 1. 蛍光 X 線分析入門 | 東理大 中井 泉 | 9:30-10:30 |
| これだけは知っておきたい蛍光 X 線分析の基礎の基礎 | | |
| 2. 蛍光 X 線分析装置 | リガク 本間 寿 | 10:40-12:00 |
| 測定技術のワンランクアップのためのブラックボックスの理解をめざそう | | |
| 昼休み | | |
| 3. よりよいスペクトルの測り方、読み方 | スペクトリス 山路 功 | 13:00-13:40 |
| 最適な測定条件の選択方法と定性分析の手順を理解しよう | | |
| 4. 定量分析 | 島津 西埜 誠 | 13:45-15:25 |
| 定量の原理と注意事項、特に FP 法の本質を理解しよう | | |
| 5. 検量線法による定量の応用事例 | アワーズテック 永井 宏樹 | 15:35-16:05 |
| 土壌、コンクリート塩害分析 | | |
| 6. 蛍光 X 線スペクトルの読み方について | 京大 河合 潤 | 16:10-17:00 |
| X 線スペクトル強度比の測定法 (EDX, WDX) による違い、2θ 軸をエネルギー軸へ変換した際の注意点、L エル線などの説明 | | |

《特別企画》

- ◆ ポスターによる蛍光 X 線分析のトピックス・応用事例の紹介 (終日掲示)

コアタイム 12:40-13:00 17:15-17:50

- ◆ 各社の分析装置の自由見学会 (講師は随時質問を受け付けます)

17:15-18:00

◆ 7/4 (水) 講義 2 日目

1. 試料調製法	リガク 本間 寿	9:00-10:00
良いデータを得るための試料調製法のコツを知ろう		
2. X 線分析顕微鏡	堀場 駒谷 慎太郎	10:10-10:50
X 線をどうやって集光するか、どのような試料の何がわかるのか		
3. SEM-EDS 分析	日本電子 高橋 秀之	10:50-11:40
SEM-EDS は XRF とどう違い、どこまで分析できるか		
4. 全反射蛍光 X 線分析	大阪市大 辻 幸一	11:50-12:30
蛍光 X 線による超微量分析法の原理と応用		
昼休み (各社装置の見学自由)		
5. 膜厚の測定	日立ハイテクサイエンス 泉山 優樹	13:30-14:10
めっきなどの薄膜の厚みをどのように測定するか		
6. 標準物質	麻布大 中野 和彦	14:10-14:40
標準物質の種類や検索方法、蛍光 X 線分析における標準物質の適切な使用方法について		
7. ハンドヘルド蛍光 X 線分析計	リガク 齋藤 庸一朗	14:50-15:30
産業、環境および文化財分野における有効活用		
8. 卓上型 WDX 分析装置による極微量元素分析	リガク 川久航介	15:30-15:55
液体法による P・S・Cl の定量分析 (LLD 0.1ppm)		
9. 蛍光 X 線による食品のスクリーニング分析	日立ハイテクサイエンス 深井隆行	15:55-16:20
コメなど食品に含まれる有害元素およびミネラルの簡易迅速分析		
10. 実際の装置を使った蛍光 X 線分析のデモ 2 コースの見学		16:30-17:20
各コース 20 分 × 2		

《特別企画》

- ◆ ポスターによる蛍光 X 線分析のトピックス・応用事例の紹介 (終日掲示)

コアタイム 13:00-13:30 17:30-18:30

- ◆ 各社の分析装置の自由見学会 (講師は随時質問を受け付けます)

17:30-18:30

《デモ見学、実習を希望する装置メーカーの選択法》

デモ見学、実習は以下のメーカーの装置を使って行います。特定のメーカーの装置を希望される方はメーカー名を考慮して申込時に記号を選択ください。指定されない場合は、そのようにご選択ください。なお、メーカー名は以下の略号を使っています (五十音順)。

OURS : アワーズテック (株)

SMD : (株) 島津製作所

JEOL : 日本電子 (株)

PAN : スペクトリス (株) マルバーン・パナリティカル事業部

HHS : (株) 日立ハイテクサイエンス

BUR : ブルカージャパン (株)

HOR : (株) 堀場製作所

RGK : (株) リガク

- ◇ キャンパシティの関係で定員を設けて先着順とし、定員を越えた場合は第 2 希望以下のコースになります。あらかじめご了承ください。未選択の場合はこちらで割り振りさせていただきます。なお、異なる視点の説明が受講でき、多様な装置の性能を理解できるため、実習 1 と 2 では異なるメーカーの装置を選択されることをお勧めいたします。

《デモ見学》

各メーカーが実際の装置を使って、蛍光 X 線分析の流れを約 20 分でご紹介します。以下の見学コースから 2 つを選択してください。第 4 希望まで選択ください。1 コース最大 15 名定員とします。

- [EDX 分析] a. どのメーカーでも良い b. SMD c. JEOL d. PAN e. HHS
- [WDX 分析] f. RGK
- [特殊装置] g. X 線顕微鏡 [HOR]
- h. 薄膜分析 [HHS]
- i. JIS K0470 に準拠した土壌分析および軽元素分析 [OURS] (デモ前半)
- ・ハンドヘルド蛍光 X 線分析計による土壌、合金、RoHS、環境試料の分析
- j. BUR k. HOR l. RGK
- m. 全反射蛍光 X 線分析 [OURS] (デモ後半)
- n. μ -XRF [BUR] ポリキャピラリ-光学素子を用いた微小焦点による高速マッピング分析

◆ 7/5 (木) 卓上型 ED/WD-XRF 装置による実習

申込みにあたっては、各実習コースを担当するメーカーを必ず第 4 希望まで選択ください。

◇ 実習 1 ファンダメンタルパラメーター (FP) 法を理解する

- i) 講義 島津 西埜 誠 9:00-10:30

FP 法の基本原理による実試料の定量分析例を用いて、FP 法を使いこなすノウハウを説明する。

また、分析装置に搭載されている FP 定量システムの理解を深める。

(参加者は対数の計算できる電卓をご持参ください)

- ii) 実習 1 8 グループ程度に分かれて各メーカーの装置で実習を行う 10:40-13:00

様々な形態の実試料を分析し、FP 法による定量分析のテクニックを習得する。

また、実際の分析装置に搭載されている FP 定量システムを理解する。

[EDX 分析] a. メーカー任意 b. SMD c. JEOL d. PAN e. HHS f. HOR g. BUR

[WDX 分析] h. RGK

◇ 実習 2 応用実習 14:00-17:00

以下の i~vii の 7 種類のコースから、メーカーも考慮して 1 つを選択。各コースの最大定員は 8 名程度。

i) EDX 分析

a. メーカー任意 b. SMD c. JEOL d. PAN e. HHS 各 1 コース

ii) WDX 分析

f. RGK 2 コース (予定)

実際の WDX (波長分散) 型装置を使って蛍光 X 線分析の基本を学びます。応用として機能性材料、プラスチック、環境試料などを迅速簡便に分析する方法、そのノウハウなど、色々な試料を用いて実習します。

iii) X 線分析顕微鏡

g. HOR 1 コース

10 μ m の分解能を持つ X 線分析顕微鏡を使って、電子部品や生物など様々な試料の元素分布の観察方法を実習します。微小部における異物分析 (同定・FP 定量) もあわせて行います。

iv) 薄膜分析

h. HHS 1 コース

nm から μ m オーダーの合金・多層薄膜の膜厚・組成の同時測定を、マイクロビーム蛍光 X 線分析装置を用いて実習します。薄膜 FP 法や薄膜標準物質についても学びます。

v) ハンドヘルド蛍光 X 線分析計 (3 社の中から途中で交代して 2 社で実習予定、第一希望のみ選択)

i. HOR j. BUR k. RGK 各1コース

環境・リサイクル・文化財分野におけるその場分析

vi) 全反射蛍光 X 線分析

l. OURS 1コース (ポータブル全反射装置を使用)

超微量分析用試料調製法のノウハウ (器具、水、試薬、塵よけの簡単な工夫、洗浄法、試料乾燥法など)、内標準による ppb 濃度の定量分析、土壌浸出液および毛髪元素分析

vii) μ -XRF 分析

m. BUR 1コース

高速マッピング・異物分析・めっき薄膜分析など

《ポスター講義》 新規募集中

1)共焦点型微小部蛍光 X 線分析法による深さ元素イメージング 阪市大院工 辻 幸一

2)モノクロメータを用いた蛍光 X 線分析装置による軽元素分析 アワーズテック 永井宏樹

3)ポータブル全反射蛍光 X 線分析装置による微量元素分析 アワーズテック 永井宏樹

4)X 線分析技術を用いたリチウムイオン二次電池部材中の金属異物評価 日立ハイテクサイエンス 泉山優樹

5)エネルギー分散形蛍光 X 線分析による水砕スラグの迅速分析 日立ハイテクサイエンス 深井隆行

◆ X 線分析研究懇談会入会のおさそい

X 線分析研究懇談会年会費は以下の通りです。わずかの年会費で講習会参加費が大変お安くなりますので、ぜひこの機会にご入会をお勧めします。詳細は <http://www.a-chem.eng.osaka-cu.ac.jp/xbun/kiyaku.htm> をご覧ください。

A会員 日本分析化学会個人会員 1,000 円 会員外 1,500 円

B会員 日本分析化学会個人会員 4,500 円 会員外 5,500 円

B会員は毎年3月に(株)アグネ技術センター発行の「X 線分析の進歩」(定価 5,500 円)を無料で受領可-

X 線分析講習会ウェブ申込入力事項（下書き作成用）

氏名（漢字）	
氏名（ローマ字）	
所属名	
連絡先（勤務先の場合は所属名まで） 〒	
Tel :	FAX : e-mail :
申込資格 1. 一般 2. 学生	会員区分 1. 主催・共催学会会員 2. 協賛学会会員 3. その他一般 所属学会名（ ） 会員番号（ ）
A. 参加希望 1. 講義＋実習 2. 講義のみ	テキスト（4,000 円）購入希望（参加費とともに送金ください） 1. 有 2. 無
B. 7/4 に行われる 20 分×2 回のデモ見学の希望コース（2 つ見学可）を第 4 希望までアルファベットを選択。 [EDX 分析] a. メーカー任意 b. SMD c. JEOL d. PAN e. HHS [WDX 分析] f. RGK g. X 線顕微鏡 [HOR] h. 薄膜分析 [HHS] i. 土壌分析 [OURS] ハンドヘルド (j. BUR k. HOR l. RGK) m. 全反射 [OURS] n. μ-XRF [BUR] 第 1 希望（ ） 第 2 希望（ ） 第 3 希望（ ） 第 4 希望（ ）	
C. 本講習会に参加される目的をお教えてください（複数選択可） a. 蛍光 X 線分析がどのようなものか知りたい b. 蛍光 X 線分析の基礎を学びたい c. 特定の試料について分析方法を知りたい → 試料名（ ） d. 特定の装置について使用法を知りたい → 装置名（ ） e. 特定の分析法について学びたい → 分析法（ ） f. その他ご意見ご要望（ ）	
D. i) 蛍光 X 線分析装置の使用経験をお教えてください（コース分けの参考にさせていただきます）。 a. 経験なし b. 初心者 c. ルーチンの利用 d. その他（ ） ii) 主な分析対象試料、関心のある試料（ ） iii) 現在装置を使用されている方はモデル名（ ）	
E. 参加費送金予定日	月 日（送金金額： 円）
F. この講習会はどのようにしてお知りになりましたか a. 雑誌（雑誌名 ） b. ダイレクトメール c. WEB サイト（ ） d. その他（具体的に ）	
G. 7/5 の実習を申し込まれる方は、希望するコースをアルファベットで選択してください。 《実習 1》FP 法による定量実習 第 1 希望（ ） 第 2 希望（ ） 第 3 希望（ ） 第 4 希望（ ） [EDX 分析] a. メーカー任意 b. SMD c. JEOL d. PAN e. HHS f. HOR g. BUR [WDX 分析] h. RGK 《実習 2》応用実習 第 1 希望（ ） 第 2 希望（ ） 第 3 希望（ ） 第 4 希望（ ） i) EDX 分析：a. メーカー任意 b. SMD c. JEOL d. PAN e. HHS ii) WDX 分析：f. RGK iii) X 線分析顕微鏡：g. HOR iv) 薄膜分析：h. HHS v) ハンドヘルド蛍光 X 線分析計：i. HOR j. BUR k. RGK vi) 全反射：l. OURS vii) μ-XRF：m. BUR	
H. 要望事項・コメント	

ウェブ申込 申込受付日 月 日